

CONCERTINO

No 2

di KYOTO

1960年11月19日(土)午後7時

京都会館第2ホールにて

主催 才能教育研究会京都支部
後援 京都市・京都市教育委員会



CONCERTINO di KYOTO に寄せて

音楽は世界の共通語であるとともに、子供たちにとって欠くことのできない心の糧といえる。ところが文化観光都市である京都に、心から音楽に親しみ、それに精進する子供たちの弦楽団が誕生したのは、大変よろこばしいことです。昨年秋の第1回演奏会は不幸にしてきく機会を失ったが、その演奏を録音したテープをきいたとき、私はこれがほんとうに小中学の子供たちだけで演奏したものかどうかを疑ったほどであった。

市民全体が音楽に親しみ、音楽を愛好することにより高い文化観光都市京都をつくりあげようと、私は私なりに力を尽してきた。その意味で私はこの弦楽団が、あらゆる困難にうちかち、すぐれた弦楽団に成長することを心から願ってやまない。

京都市長

宮山 茂之



メッセージ

早期教育は、音楽においてとくに高く評価されなければなりません。

ヨーロッパの多くの家庭には、ピアノやその他の楽器があるので、子供たちは幼い時からそれを聞き、またはそれにふれることができます。しかし日本では、その点で大ぶ事情が異なると思います。

ですから、日本における音楽の早期教育は、とくに大切なものであり、それによって期待される場所も大きいものがなければなりません。

私は、過日コンチェルティノー・ディ・キョートの子供さんたちの演奏を収録したテープをきき、また実際の演奏もききましたが、大そう感心するとともに、日本における洋楽の将来に大きな期待を持たされました。

それゆえ、私は本夕の演奏会に、非常な興味と期待を抱くものであります。

京響常任指揮者

Carl Caelius

カール・チェリウス

CONCERTINO di KYOTO

について

十年一昔といわれますが、才能教育研究会の支部が京都に出来てからもうそんな月日がたちました。そのときほんのよちよち歩きだった子供たちも、いまは中学や高校へ通うようになりました。その中からまた新しく生れた弦楽団が、第2回目の定期演奏会を開くようになったのですから、子供たちの成長ぶりがしのばれるわけです。

昨年秋の第1回演奏会は、皆様の深い理解のもとに誕生1年半後とはいえ、大変好評を得ましたが、その後1年、子供たちは雨の夜もまたむし暑い夏の夜も毎週土曜日かかさず2時間半の練習を続けてきました。そして楽団の名も決まり、京都での、いや関西での特色のある弦楽団にするよう精進と努力を重ねています。

もちろん子供の技術はまだ未熟ですが、今後音楽を愛する皆様のご支援により成長してゆきたいと思っております。

Pirastro



御用命をお待ち申し上げます

カール・ヘフナー
VIOLIN

大阪市東区道修町二・合資会社 丸一商店

曲 目

I. フーガ イ短調
バッハ

II. バイオリン協奏曲 ハ長調
アレグロ
アンダンテ
アレグロ サンマルティニー

III. 合奏協奏曲 作品3の1 ニ長調
(レストロアルモニコから)
アレグロ
ラルゴ・エ・スピッカート
アレグロ ビバルディ

IV. ピアノ協奏曲 第5番 ヘ短調
アレグロモデラート
ラルゴ
プレスト バッハ

V. 弦楽セレナード K. 525 ト長調
アレグロ
ロマンス(アンダンテ)
メヌエットとトリオ(アレグレット)
ロンド(アレグロ) モーツァルト

Programma

I. Fuga La mineur
J. S. Bach

II. Violino Concerto Do majeur
Allegro
Andante
Allegro J. B. Sammartini

III. Concerto Grosso op. 3 N. 1 Re majeur
(L'Estro Armonico)
Allegro
Largo e spiccato
Allegro A. Vivardi

IV. Piano Concerto N. 5 Fa mineur
Allegro
Largo
Presto J. S. Bach

V. Eine Kleine Nachtmusik K. 525 Sol majeur
Allegro
Romanza (Andante)
Menuetto e Trio (Allegretto)
Rondo (Allegro) W. A. Mozart



指揮 井手章夫

第1 バイオリン

東田 渉 (中1) ・ 上阪則子 (小6)

中村克敏 (小5) ・ 小谷明司 (中1)

今井玲子 (中3) ・ 大森美子 (中1)

第2 バイオリン

角野民子 (中3) ・ 木ノ内真人 (高1)

勝馬晴美 (中1) ・ 小谷明正 (小5)

仲佐悦子 (中1)

ビオラ

新井 覚 ・ 園原珠美

芥川 徹

セロ

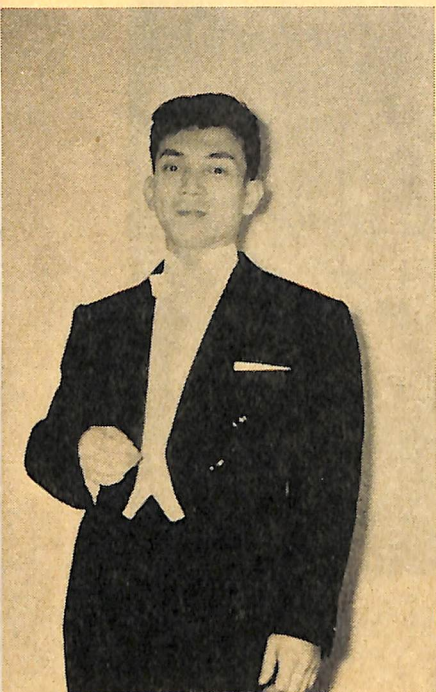
武藤俊介 (中3) ・ 米原 徹 (小6)

永島真里代 (中1)

コントラバス

森田 昭

出演者のプロフィール



井手章夫

1927年京都市に生れる。

中学時代からクラリネットをはじめ、のちオーボエ、指揮を勉強し、1948年から6年間京都高校連合オーケストラの指揮者となる。またコンセルヌーボーでオーボエを吹き、現在は京都弦楽団また昨年から当楽団の指揮者として活躍している。

本職は加茂川中学の理科の先生。

新井 覚

1932年長野県飯田市に生れる。

1944年松本市に移転し、鈴木鎮一氏に師事、9年間同門下でバイオリンの修業をし、1952年才能教育研究会京都支部の指導者となって今日に至る。室内楽が得意で、中学時代から、セロの野村氏などと弦楽四重奏団を組み、現在は京都弦楽団のコンサートマスター、また当楽団のバイオリン指導者として活躍している。

野村武二

1932年長野県松本市に生れる。

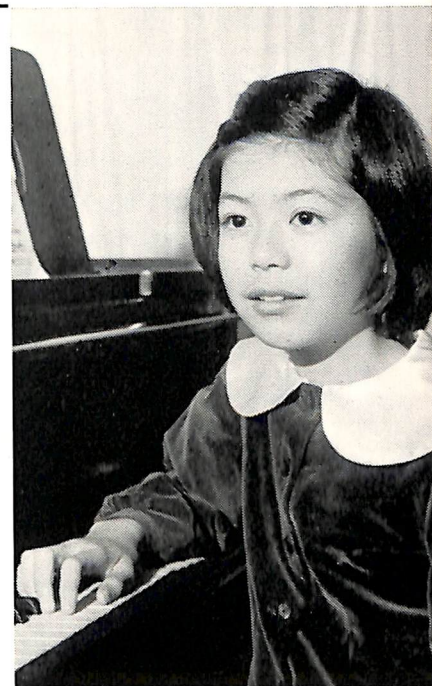
1950年からセロを学び、翌年東京芸術大学セロ科小沢教室に入る。

1954年東京フィルハーモニー交響楽団に入団し、カザルス門下佐藤良雄氏に師事、翌年才能教育研究会京都支部に招かれ、指導者としてセロ教育を担当、現在は京都弦楽団の首席セロ奏者、また当楽団のセロ指導者として活躍している。

武藤純子さんについて

純子ちゃんは、その名のように、純粹で純心な、かわいいお嬢さんです。黒い大きな瞳は、ピアノの時にも、読書の折にも深く探究的に輝くように思います。私は彼女の音楽を、文学的なものと感じます。まだまだ小さくて、かわいいのに精神面では、探究的で、内面的になっていく傾向が強く、曲によっては思いもかけぬ深い底を掘り出して、ときどき私を、おどろかせます。これから大きくなるにつれて、テクニックが、もっと柔軟になれば、とりわけロマン派の音楽が彼女の特性を生かし、その深い理解力をとおして、人々の心の内部に語りかけていくことでしょう。

(藤村るり子)



1948年京都市に生れる。

4才から東貞一氏に師事してピアノを学び、現在藤村るり子氏に師事している。小学6年生。



角野民子さんについて

好きだということが、彼女ほどぴったりあてはまる子供はすくない。バイオリンをはじめてまる四年半、ひまがあれば楽器を持つ彼女である。納得のゆくまで弾く、とにかくわきめもしない勉強の仕方—それだけが彼女の特色でないことはもちろんだし、それが唯一の勉強方法でないことは当然だが、音楽の基礎を身につけるという点ではやはり大切なことだと思う。

これからほんとうに音楽的成長をとげるかどうかは、彼女自身の問題だが、たゆまぬ努力と彼女の感受性は必ずしもそれを不可能なものとはしないであろう。

(新井 覚)

1946年京都市に生れる。

小学校5年から才能教育研究会京都支部で、新井覚氏に師事し、現在に至っている。当楽団では第2バイオリンの首席をつとめている。中学3年生。

曲目解説

フーガ ヨハン・セバスティアン・バッハ (1685~1750)

大バッハがワイマール時代、即ち20代の若い頃に作ったクラフィアの為のフーガである。バッハ協会版の36巻に収録され、シュミダー・カタログでは947番となっている。作曲の動機、その他については不詳である。四声のフーガで、若い頃の作品だけに、構成もさして複雑でなく、心にしみ入る味には乏しいにしろ、完璧なスタイルの作品である。クラフィアの為に書かれたものであるが部分的には鍵盤よりむしろ弦楽合奏に適している様に思われる。なお、本日演奏されるものは当楽団指揮者の井手氏の編曲によるものである。

バイオリン協奏曲 ジョバンニ・バッティスタ・サンマルティーニ (1701~1775)

非常に多作な人で交響曲、トリオソナタ、オペラ等2000以上の作曲をしている。特に交響曲ではハイドンに致る源として重要な人である。バイオリン協奏曲は明るくて大変かわいらしいものであり、原譜はビオロンチェロピッコロ(小さなチェロ)用に作られている。第1楽章、第3楽章は長い前奏の後にソロが始まり、絶えず異なった旋律で明るく歌い、前奏と同旋律の後奏で終る。第2楽章は終始ソロが悲しく訴へ他は静かに単調な伴奏をする。

合奏協奏曲 (レストロアルモニコから) アントニオ・ビバルディ (1675~1741)

『調和のとれた詩』と彼自身が名づけた12曲をセットにした合奏協奏曲の第1番目のもので、4つの独奏バイオリンの為の協奏曲である。

曲目解説

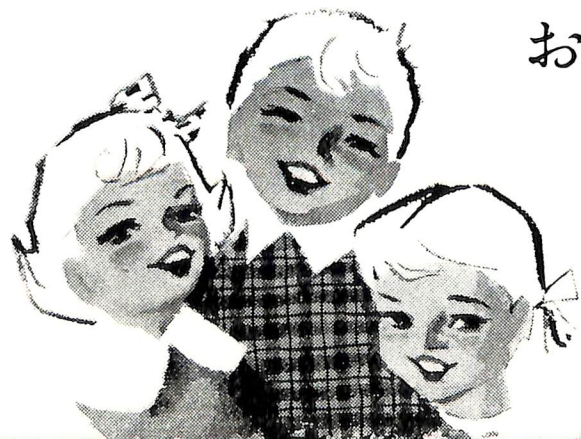
第1楽章は無伴奏の2つのバイオリンから始まり独奏チェロが加わってのち合奏、また2つのバイオリンが美しい三度を奏し、諸楽器の応答があって終るが、弦楽器の音色の美しさや変化をねらった美しい楽章、第2楽章はユニゾンの力強さと美しさをねらった楽章、第3楽章は舞曲らしい旋律とリズムを持った楽章から成って居る。

ピアノ協奏曲 ヨハン・セバスティアン・バッハ (1685~1750)

バッハは鍵盤楽器の協奏曲を書いた最初の人であるが、彼自身のヤビバルディのバイオリン協奏曲の改作が多い。この曲もその何れかであるといわれている。第1楽章は独奏とオーケストラが、互いにかけ合うリトルネル形式を用い、全体として力強いが動きの静かな楽章、第2楽章はバッハらしいロマンチズムに富んだもので、ゆったりした旋律に悠々としたピチカート伴奏がつく。第3楽章はエコーの効果を用いたリトルネル形式で、快速でダイナミックな感じの楽章である。

弦楽セレナード ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト (1756~1791)

18世紀頃流行したセレナードは、今日のものとは違って大規模であり、4つ以上の楽章から成っていて、室内楽と交響曲の中間のような楽式を用いている。モーツァルトはこのようなセレナードを13曲書いたが、この「一つの小さな夜曲」と名づけられたK. 525は1787年にブラーグで書かれたもので、4つの楽章から成り、幻想的な旋律に富み、弦の限らない美しさが示されていて、最も親しまれている名曲である。



お買

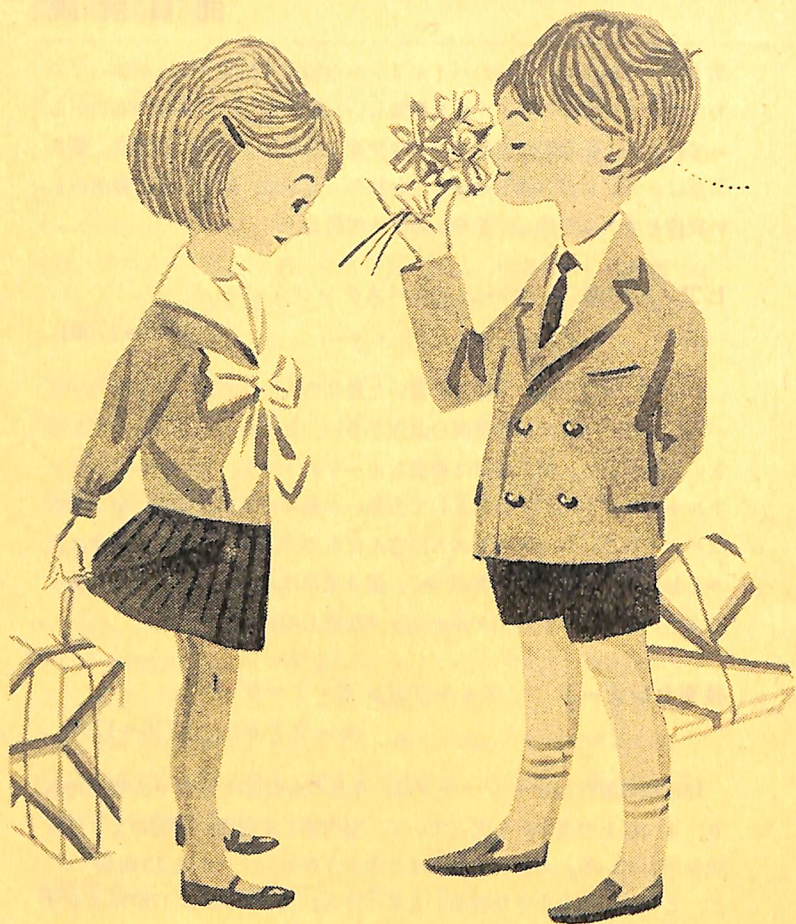
物は皆さまの

タカシマヤ



高島屋

京都・四条
電 22 7611・7621・7631



夢と希望にふくらむお子様に

大丸の良品を

- 1階では くつ・くつ下・手袋・バッグなど
- 2階では 既製服・はだ着・帽子・服地など
- 3階では きもの・はきもの・寝具・毛糸
- 4階では 勉強机・本箱・電気スタンド
- 5階では 学生服・運動用品・アルバム
- 6階では 書籍・がん具・のりもの・文具



京都・四条

大丸

電(22) 2 1 2 1

LIPTON

喫茶・洋菓子・グリル



リプトン

三 条 店 三条河原町西入
 四 条 店 東洞院四条上ル
 河原町店 河原町蛸薬師角
 製菓工場 高倉御池上ル

